

平成26年度第12回移動市長室会議録

(平成27年3月27日)

1 日 時：平成27年3月27日（金曜日）14時～15時40分

2 場 所：生涯学習センター 学習室6

3 出席者：

『筑紫野市小地区公民館連絡協議会』

森田会長、内野副会長、中島副会長、福地事務局長、金丸会計、
常任理事、理事 など（21人）

『筑紫野市』

藤田市長、江崎教育部長、市川生涯学習課長、宗貞戦略企画課長、
檜木秘書広報課長、針崎生涯学習課長補佐、野坂広報広聴担当係長、
末吉秘書広報課主任、貞金生涯学習課主事、佐々木生涯学習課社会教育指導員

4 内 容：団体の現状と課題などについての懇談

○（事務局） ただいまから平成26年度第12回通算44回目の移動市長室を始めさせていただきます。本日の懇談は、お手元の次第のとおり進めさせていただきます。この後、藤田市長の挨拶、小地区公民館連絡協議会森田会長のご挨拶のあと、参加者の自己紹介、活動報告、課題と要望、意見交換、平成26年度の小地区公民館に関する筑紫野市の主な施策概要の説明、最後にお礼の挨拶、といった順番で進めさせていただきます。

活動報告では、森田会長よりパワーポイントを使って、小公連の概要と重点目標、主な事業内容、課題についてお話いただいた後、要望・回答へと移ります。その後、本日参加いただいた方が発言できますように、意見交換の時間を設けています。

本日の懇談内容は、会議録を作成し公表させていただきます。撮影しました写真は、市のホームページ、広報紙に掲載させていただきます。

では、初めに、藤田市長がご挨拶を申し上げます。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。本日は、平成26年度の最終回、通算44回となりますが、今年度最後の移動市長室を、筑紫野市小地区公民館連絡協議会の皆さんとの懇談の場として迎えられたことを大変うれしく思っております。

森田会長をはじめお集まりの皆さんには、日ごろより市政の運営にご理解とご協力をいただき、また、ご多用の中を、この移動市長室の開催にご尽力いただきましたことに深く御礼を申し上げます。

公民館は、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりの活動拠点として、災害時等の自主避難所としての役割も担っています。このことを踏まえ、小地区公民館連絡協議会では関係団体・機関と密接に連携し、生涯学習の推進とともに総合的なまちづくりの視点に立った公民館活動を充実し、社会教育の振興を図るためご尽力をいただいております。各地域における皆さんのご活躍に心から感謝をしております。

本日は、日ごろの皆さん方の活動状況や課題を伺いながらの懇談とさせていただきます。どうか、皆さんの忌憚のないご意見、思いを伺わせていただきますよう、お願い申し上げます。ご挨拶と代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

○（事務局） 続きまして、小地区公民館連絡協議会の森田会長、よろしくお祈いします。

○（森田会長） こんにちは。本当に野山が春らしくなってきました。藤田市長におかれましては、ご多用の中にこの移動市長室を開催してただけましたこと、心から御礼申し上げます。また、日ごろから小公連に対するご理解、ご協力を賜っておりますことも御礼申し上げます。

特にこの場をお借りいたしまして、担当生涯学習課、佐々木さんを初め職員の皆さん、それから各公民館長さん、主事さん、教育部門の方全てに、いつもお世話になっておりまして、私たちの運営を助けていただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

近年、社会情勢が本当に急激に変化する中で、公民館が地域コミュニティの活動拠点としての位置づけ、従来の公民館の役割、生涯学習の推進とともに、さまざまな状況の中で、いろいろ活動を求められているのが現状です。

そういう中で、今日の開催の中で私どもの小公連の活動状況、要望、課題等、身近に市長に聞いていただける機会を持っていただきましたことを本当に心より感謝申し上げます。これを機会に、私どももさらに一層充実発展を遂げるように努めてまいりたいと思いますので、引き続きご指導のほどをよろしくお願い申し上げます。

終わりに、藤田市長のますますのご健康とご活躍、そして筑紫野市の発展を祈念いたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

○（事務局） ありがとうございます。

ここで、本日の参加者の自己紹介を行います。まず、市側から行います。私は司会を務めさせていただきます秘書広報課の野坂です。

○（江崎教育部長） 教育部長の江崎です。本日はお集まりいただき、ありがとうございます。最後までよろしくお願いします。

○（生涯学習課） 生涯学習課長の市川です。

○（生涯学習課） 生涯学習課課長補佐の針崎です。

○（事務局） 秘書広報課長の檜木です。

○（戦略企画課） 戦略企画課長の宗貞です。

○（事務局） 秘書広報課広報広聴担当の末吉です。

○（生涯学習課） 生涯学習課の貞金です。

○（生涯学習課） 生涯学習課の佐々木です。

○（事務局） 続きまして、小公連の皆様お願いします。

○（内野副会長） 副会長を仰せつかっております美しが丘北公民館の館長をしています内野です。私のところは、1200世帯、3500名という人数で、館長、区长みんな一緒なので、働いていますけど、それは大変だなと、やればやるほど大変だなと思っています。今後はちょっと分けていろいろと行いながらやっていきたいなと思っています。

○（中島副会長） 若葉中原公民館の館長をしています中島妃佐子です。私のところは、

2行政区で1つの公民館を運営しておりますので、世帯数は650ぐらいですが、いろいろな問題が出てきて大変なこともあります。何とか頑張っております。

○（福地事務局長） 事務局長を仰せつかっております福地です。昭和地区の公民館の主事をしております。

○（金丸会計） 筑紫駅前通の館長をしています金丸です。小公連では会計を担当しております。筑紫駅前通は、地元出身の方はほとんどいなくて、各地から寄り集まっての行政区となっていますので、皆さんのきずなづくりというのがなかなか難しいところがありますけれども、いろいろなことを企画しながら何とかやっているところです。

○（常任理事） 天神区の館長をしております井上です。二日市の真ん中にあるのですが、世帯数で140を切るような状況です。催し自体も、非常に人が集まらないということで、何か筑紫野市でナンバーワンになるものはないかということで、今のところ七夕とひな祭りをしております。それによって町内の人たちが、自分たちがやっていることは筑紫野市のナンバーワンだというような意識を持たせることによって、みんなの結束を図っていきたい。そういうことで今のところ進めております。

○（常任理事） 古賀館長をしております本田です。約400世帯です。私、2期4年、館長をしましたが、さらにもう1期2年、館長を引き受けます。

○（常任理事） 原公民館長の中村です。御笠地区では文化財に力を入れて頑張っておりますので、よろしくをお願いします。

○（常任理事） 常任理事、山家8区館長をしております藤井です。山家8区は山家の地域と小学校主催で、山家宿の祭りを行っている地域です。年々盛大になっております。

○（理事） 東町の区長、そして旭東公民館の館長をやっております井上國次です。私のところの特徴というのは、二日市小と二日市東小の両方の生徒を抱えて、やりにくい面もあるけれど、逆に前向きに考えると、子ども会の役員さんがいっぱいおられて、行政区の子ども会も二小、東小。だから、公民館活動をするときには育成会とかいろいろ役員だけでも7、8人いらっしゃる。

昨日、会議が終わって帰っていて、2つぐらいの子が「区長、ママがおらん」と言って寄ってきて、「よしわかった、連れていこう」と言って、連れていったら、私の裏のところだった。小さな子のおかげで「区長、区長」って来るから、えらくかわいいです。そういうことで、役員が多いというのはいいかなというふうに思っております。

○（理事） 筑紫野市の玄関口、本町公民館の館長をしております椎葉眞弓です。うちは約

750世帯ですが、私が子ども会をしているころから、非常に行事の多い行政区で有名だと思うのですが、そのおかげで皆さんの触れ合う機会が多くて、和気あいあいとしておりますので、今後もまた皆さんで、やっぱり筑紫野市の玄関口をにぎやかにしなきゃいけないと思っています。

- （理事） 大門の公民館長の安楽です。区長も兼ねております。この前も主事と話をしておりまして、区長職をあんまりやると、館長職が留守になるねという話をしながら、27年度の総会も控えているものですから、新しい名簿を作成していたら、子ども会の会長がお見えになり、実はちょっと困ったことがありますということでお話を始められた。「区長さん、子ども会の世帯が今、16世帯なのですよ。半分が離脱したいということで、今困っています。どうにか相談に乗ってもらえませんか」ということでした。

私も、高齢化につきましては一生懸命取り組んだ経緯があるものですから、子ども以上に活発に今、公民館でいろんなサークルもやっているのですけれども、子ども会はちょっと手を抜いたかなと、ちょっと困ったとお話をしました。

1回皆さんを集めてくれないかということで、日にちを改めて設定してもらいました。そしたら、案の定、やめた人は来てないのですよね。入っている人だけが来てお話をしましたが、そこで言っても、お話する中で何か合わないのですよね。やめていく人が来てないものですから。

私も今期でやめるものですから、何かいい方法がないかということで、次の人にお話しながら、子どもは本当地域の宝なんだよね。もう、子どもがいなかったら、高齢者も何もないんだもんねっていう話をしながら、もっと子ども会というか、子どもたちに情熱を注がないといけないなということで、今取り組みをしているところです。やめても、これにはもう一回、考えながらやっていきたいと思っています。

- （理事） 昭和区の公民館館長をしております廣瀬です。私も精一杯頑張らせていただいております。

- （理事） 二日市地区の鳥居公民館の前田です。今年の2月に二日市地区の公民館視察研修をさせていただきまして、たくさんの方においでいただいて、鳥居公民館はこんなところだねと、お見えになられた方には覚えていただいた。ちょっとはPRになったかなと思っています。

市長さんもお存知のように、道路建築の真っ最中で、きれいになるのはたいへんありがたいなと町内の人たちは、みんな異口同音で言っているのですが、やっぱり建築過程と

は言いながら、ほこりがすごいねというのはブーイングがありまして、こればかりはしようがないよと言っておりますけれども。井上天神館長さんは、一番にと、僕は天下一品、ここにしかない公民館はどうやったらなるかなと思って8年間やりました。あと4、5日で引きますが、きちんとバトンは渡していきたいと思います。

○（理事） 朝倉街道団地で区長と公民館長をやっています大平です。朝倉街道団地の高齢化率は非常に高くて、若い区長ですけども、75歳以上が非常に多いということで、みんな話をしてくる人は私よりもお年の方が多い。そういう中で、これから公民館活動をこういう方がどうやって、続けていかれるか。どんどん寝たきりとか、顔をみないということで聞きますと病院に入っていて、もう公民館活動できないという方が結構増えているので、今後それをどうしたらいいかというのがテーマではないかと思っています。

○（理事） 針摺公民館の主事をさせていただきます中村です。

○（理事） 萩原区の館長をさせていただきます真鍋です。本年度につきましては、山口地区の小公連の研修会で萩原区が担当になっていました。小さな集落ですので、いろいろな行事はやっていない中で発表しないといけないということで、発表するのはものすごいプレッシャーがあるものですから、大きな地区についてはたくさんしてあるのでしょうけど、少ない中で一生懸命探さないといけない。時間も1時間やるということでした。そういうことがあったということで、御報告をさせていただきます。

○（理事） 牛島主事の江口です。今、ちょうど2年の任期が来ているのですが、私は恐らく継続になると思うのですが、その間に、私何をしようかと。先ほど、井上さんが言われた、ここしかできない何か、それを3つ考えました。

1つは、すぐそばの池にカモがいます。これ獲ってやろうか。ところが禁漁区らしいので。その池に、もう一つはスッポンを飼おうか。もう一つ、最後の手段、レンコン畑。それをとにかく修復しよう。というのが、今は枝がいっぱい伸びています。とりあえずボートを仕入れまして、枝を切って、要は肥料をやってないものですから、肥料をやって、育てようかなということで、将来は辛子レンコンを販売しようかと思っています。

○（理事） 西吉木公民館の主事をやっております中嶋です。小公連の役員を2年間やらせてもらいましたが、役をするのはいろいろ大変だなとは思っております。私も地元ではいろんなこれ以外にも7つぐらいのいろんな理事とか総代とか、いろいろ役をさせてもらっていますが、また長年役をするのは大変だなということは、つくづく感じました。

○（理事） 原田公民館主事の小金丸です。私は筑紫野市山家の出身ですが、学校卒業と同

時にサラリーマンで各地を転々としていました。定年を迎えまして、やっと地元に戻ってこられました。退職をしたことだし、地域のためにちょっと頑張ってみようかなと思って、頑張っています。

○（理事） ちくしヶ丘公民館主事をしています野中です。私、去年初めてこれに就いたのですが、前はちくしヶ丘公民館の館長をやったことがあるのですが、RKB団地ができて、相当経つものですから、今はもうほとんど高齢者。176世帯で、もうこれが増えることはないのですよね。団地でもう区画が決まっています。増えても1軒か2軒ぐらい。子どもさんがどんどん出ていってしまい、ほとんど年寄り。小学生は12人ぐらいしかいない。もう私、去年から何をやったらいいのだろうと思って、いろいろ考えるけれど、年寄りで今7サークルをやっている。それが使うのが精いっぱいという具合で、ほとんど公民館はがらあきです。それで、常駐もしてないし、年寄りばかりで、救急車がほとんど毎日来るといふような感じです。去年から今年にかけて、3人が亡くなっているのですね。それから、それに増して、一人世帯が増えて、連絡もつかないということがあつたし、何をしたいかわからないうちに終わったみたいな状況です。

1年間やって、よその公民館の活動を見たのですが、30年位前のちくしヶ丘のときのパターンですかね。子どもが多くて、いろんな祭りとか、やった。そのときを思い出したくらいで、結果的に何をやったらいいか、あと何を引き継いだらいいかわからないまま過ごしているもので、今度はまた代わりますけども、あとの人に、とにかく何かできるような方法を少しでも引き継げたらと思います。

○（事務局） ありがとうございます。皆さんそれぞれしっかりPRしていただいたと思います。それでは、活動報告に入ります。小公連の概要と重点目標、事業内容について御説明をお願いします。

○（森田会長） それでは、私ども小地区公民館の活動報告をさせていただきます。

まず、私どもの小地区公民館連絡協議会の概要ですが、目的は、筑紫野市内の公民館活動を充実し、社会教育の推進を図る。沿革としては、昭和43年の夏ぐらいに主事会の名称で開会をされた。ここの歴史については、ちょっと昔のことがわからないことが少しあります。昭和49年7月から、組織強化を行いまして、研修会や推進大会などを開催してまいりました。

運営等につきましては、各小地区公民館の館長・主事の中から、地区ごとに定数を互選して選出された理事によって、運営をやっておりまして、特に役員構成として、会長、副

会長、会計、事務局長、常任理事の役員10名、それから理事の19名、参与7名も含まれますけど、総勢、館長・主事172名の組織として、事務局を生涯学習センター内に置いているところです。

先ほど申しましたように、それぞれの5つの地区に、地区の小公連公民館連絡協議会を設置しまして、その中から決められた人数によって理事会、理事を選出しまして、五役会、最高議決機関の総会というところで、公民館としては87館の組織として行っております。

これは、平成26年度、今年度の小地区公民館の事業方針・重点目標で、生涯学習の推進、総合的なまちづくりの視点に立った公民館活動というところで、第1点に重点目標として、まちづくりの視点を持った公民館活動の推進、その中に、館長・主事会の開催、小公連コミュニティ準備検討委員会の発足。これは皆様もご存知のように、筑紫野市において、コミュニティ運営協議会が昨年度立ち上がりました。そういうものを見越して私どものほうで準備の検討委員会を発足したところです。

第2点目としまして、研修会・学習会の充実。一つは、推進大会における参加者の拡大の取り組み。2点目として、避難所としての公民館のあり方の検討。そういう学習を充実させてきました。

事業の内容として、一つは研修を行っております。館長・主事研修会、それからそれぞれの地区、筑紫地区、福岡県、九州地区、そういう大きな大会にも研修で出ていております。それから主事研修会、私どもが主催で行っております各地区の地区別視察研修会、また福岡県の実践交流会、福岡地区公民館研修、こういうものを研修事業として行っております。

特に大きい大会として、推進大会を行っているところです。

事業としては、公民館の小公連の会議というものを情報発信として行っております。

議決機関としては、先ほど組織の中でお話しましたように、事務局会、五役会、理事会、総会というところの議決機関を得ているところです。

次に、補助事業として、公民館の主催講座、それから公民館の主事設置補助、公民館設置補助、こういうのを市からの補助としていただいて活用しているところです。

私どもの大きな定期総会、最高議決機関で、今年度5月17日に175名の参加がありました。藤田市長を始め御来賓の方々には、御多用の中に臨席を賜っております。本当にいつもありがとうございます。

次に、推進大会、これは毎年9月に行っております、今年度は小公連設立の40周年

記念という節目に当たりまして、参加者も340名の参加を見たところです。大会テーマを『一緒にやりましょう！まちづくり～公民館をまちづくりの拠点に！～』というところで、講師に九州大学の田北講師に来ていただき、『公民館から始まる「まちづくり」』という演題で講演をいただいたところです。また、アトラクション、それから3つの地区からそれぞれの事例発表を行っていただきまして、研究討議も行ったところです。二日市地区は京町公民館、山家地区は山家2区公民館、御笠地区はみかさ台公民館の研修会を行っているところです。また、展示として、いろいろ展示をしているところです。

これは、開会行事。それからアトラクションに、岡田公民館のF u n k y ' sダンスで、子どもたちのダンスを披露していただきました。これは、研究会の内容でそれぞれ3地区の発表の後に会場フロアからと講師の方々との研究討議がありました。

これは、会場、さんあいホールの入り口のところに、21公民館の、それぞれ自分たちの公民館で活動されているものの内容等を発表していただきました。玄関には、今日も市長がこの会場に入られるときにくぐってこられたと思いますけれども、門を作りまして、またそれぞれの公民館から展示物をそれぞれしていただき、今回は上のホールだけではなくて下にも広げまして、盛大に展示についても拡大をしているところであります。

次に、館長・主事研修会、これは6月に、新任の館長・主事さんを中心に研修を開いているところですけれども、新任以外の方も参加されまして、館長・主事の基本的な役割というところを社会教育主事の亀井さんより説明をしていただき、館長としての実務経験を踏まえたお話ということで、美しが丘の内野館長、そして主事の実務経験ということで、昭和の福地主事にお話をしていただきました。

身近に活動をされている館長・主事さんの話を聞けるということで、今年度は92名の参加を見まして、大変有意義な研修会になりました。これが、館長・主事研修会の風景ですけれども、皆さん本当に熱心に聞かれておりました。

次に、大きな地区での研修会ですけれども、九州大会、今年は鹿児島で8月にあり、1泊で参加しております。それから福岡県大会、実践交流会についても7月と2月に行っております。

これは、九州大会の様です。鹿児島に14名で参加いたしました。記念講演で、36代の木村庄之助、山崎氏から講演「努力すれば夢は叶う」というところで、相撲の一番最後に立行司を務められています世襲の木村庄之助さん。今年も春場所で代わられているようですけれども、やはりいろいろな苦労があつて、木村庄之助さんの立行司ができる

ということで、努力すれば夢は叶うんだよという内容的にも胸を打つ講演がありました。

これは、福岡県大会と実践交流会ですけど、県大会は32名、実践交流会は19名の参加がありました。

これは、私どもの理事会、五役会の風景です。それぞれ年に数回、理事会、五役会、事務局会、研修会などを行っているところです。

次に、地区別視察研修会、これは大体1月から3月までの間に、5地区それぞれ地区を代表して、1つの公民館に発表をさせていただいているところです。まず、山家地区です。これは1月に、山家コミュニティセンターで、鹿児島全国的に有名になっていらっしゃると思います。鹿屋市の柳谷というところ、「やねだん」で通称されておりますけど、まちおこしの取り組みの講演会がありました。小さな町でも自分たちの地域にあった特産ですね。ここは芋焼酎とかが有名ですけど、そういうものを送り出して全国、韓国とかヨーロッパにもこのごろ進出しているというような話をされておりました。

次に、2月に山口地区、萩原公民館、先ほど真鍋館長から出ておりましたけど、皆さんそれぞれ苦労されて、それぞれ発表をされておりました。二日市地区、鳥居公民館、これも鳥居の前田館長がおっしゃってましたように、鳥居のそれぞれの活動を報告していただきました。御笠地区については西吉木公民館、これも中嶋主事から少し出ておりましたけれども、伝統行事の継承と地域のきずなを深めるという、そういう公民館活動をお話していただきました。

3月になりまして、筑紫地区の馬市公民館、馬市公民館については新しく新築をされておりましたけれども、ちょっと間に合いませんでしたので、筑紫南コミュニティセンターでお話がありましたけれども、それぞれ公民館の活動、建設についてもお話がありました。

この中で、特にこの後、課題のほうでも触れさせていただきますけれども、公民館の老朽化、ここの問題がやはり2つほど出ましたし、それぞれやはり高齢化問題ですね。それぞれやっぱりお年寄りが増えていっている中で、今後の公民館活動をどういうふうにしていこうかと、そういうものが出ておりました。

これが、地区別研修会の様子です。山家、山口、御笠、二日市、筑紫、それぞれの地区で毎年行っております。

次に、公民館の主催講座というところで、これは補助事業ということで行っておりますけれども、新しく公民館で開設される講座について、一定限度内の謝金等の補助をするという市からの補助の制度で、活用をしているところです。主催講座というところで今年

41の講座が申請されております。

これは、湯町公民館でさせていただいたのですが、「ぷるぷるジェルキャンドル」ということで、キャンドルを人工的なものですが、ガラスとか入れてつくりました。これは親子連れでやったのですが、結構子どもたちに人気があって、非常に好評でありました。こういう作品をこの後の公民館祭りだとかでも発表をさせていただいております。

次は、美しが丘南公民館の「星空観察」。これもこの写真から親子連れだとか子どもたちに大変喜ばれている講座となりました。

次は、大石公民館。これは「ながーい連風づくり」ということで、小さな風をつなぎ合わせて、指導されて、子どもたちと一緒にたこづくりをされたというところで、こういうそれぞれの公民館でも補助をいただいているというところの紹介です。

次に、情報発信として、市長のお手元にもあり、後ろの展示にも掲示しておりますけれども、平成25年から小公連の情報の発信。この協議会活動がどういうことをしているかというのを皆さんに伝えたいということで、情報誌の発信を行っているところです。

それぞれの公民館は皆さん周知されているのですが、筑紫野市小地区公民館連絡協議会、略して小公連と呼んでいますけど、商工連と勘違いされたり、そういうのも過去ありましたけれども、私たちの活動を皆さんにも周知していただきたいということで取り組みを行いまして、年3回、4,000部、これは全行政区、回覧で発行しております。役員さん、それから小公連の活動はもちろんですけど、各公民館の活動の紹介、そういうものも載せております。

それぞれ事業をしたときの報告、例えば九州大会に参加したときにはその内容とか、それから県の交流会に行っても内容等を含めまして、皆さんに報告をしているところです。特に、夏の号では、各地区の夏祭りの状況なども詳しく報告をしております。

これについては2年目で、6号まで出ておりますけれども、さらに検討して、今後も小公連だよりを発行していったらいいかなというところで、これを引き続き活動として取り組みをしていきたいというところです。

以上、簡単ではございますけれども、活動の報告とさせていただきます。

○（事務局） 熱のこもった御説明をありがとうございました。生涯学習とまちづくりの視点に立ったさまざまな取り組みがよくわかりました。

それでは、ここで幾つか教えていただきたいことがありますので、質問をさせていただきます。まず、各地区で公民館主催講座を開催されておりますが、いろいろと御苦労があ

るのではないのかというふうに御推察いたしております。そこで、一番の苦勞など、そういったところをお聞かせいただけますでしょうか。

○（内野副会長） 講座というのは、いろいろあって、市で生涯学習が主催されるのと、自分たちで、先ほど説明があった主催して補助をもらってやるということの区別が、なかなかわからないということで、私もボランティア主体で、0歳からはらっぱの会ですね。その流れで、それもボランティア主体でもう3年以上の講座をずっとやって、5組から7組くらい、毎月それをやっています。

それからサロンの会、高齢サロンのほうもやっぱり高齢者が30名くらい来られています。これもボランティア主体でやっています。それと、初めて僕もこういう場の勉強をするということで、会自身が講座の主になって、昨年末に親子締め縄ということで、17名くらいの親子参加があって、苦勞しましたが、締め縄をつくって家に飾る。

それと、やっぱり先生、地元の方が来てストラップづくりとか、そういう区別がなかなか難しいなということで苦勞しております。だから、今後はちょっといろんな役割、館長と主事、いろんな役を分けて、やっぱり主催講座をするということが必要。

それと、今、我々も1200世帯と言いましたけど、筑紫野市で2番目か3番目に、高齢化率が若いほうです。若いのですが、それに似合った形の講座を開いていくというのが、そのニーズにあった形になっているのか。今から私たちの仕事かなというふうに感じています。苦勞というか、開催にあたってのその辺が難しいかなと思いつつ、開催しているところです。

○（事務局） 公民館に人を集めるといったところが大事になってくるかと思っておりますが、そういったところで、趣向を凝らして、工夫しているとか、うちではこんなことをやっていますみたいなのところがありましたら、お聞かせいただきたいのですが。

○（中島副会長） 長年やっていると、もうパターン化していきまして、いきいきサロン、元気教室、体を動かすのはもう6年ほどになります。やっぱりそうすると、お手伝いはするのですが、なかなかボランティアで1人の人が中心になって、今体調不良を訴え始められていますので、これからどうなっていくか。結局お世話する人をつくっていくというのが、なかなか難しい状況で、それで今、開催する曜日とか、時間とか、それと広報をどうやってしていくか。私も、区長を兼任しておりますので、広報と一緒に回覧を回すときに、私はもう自分流で全部、案内状は自分のところの案内状を一番上にホッチキスでとめて、もうばらばらにならないようにしています。どちらかというと、皆さん一番上だと結構見

てくださるので、そういう工夫をしながら、公民館活動をやっております。

○（事務局） 推進大会の内容が報告されておりました。今年の推進大会は、設立40周年といったことで、参加者が340人で過去最大といったところで、新しい取り組みもあって盛況だったというふうにお伺いしております。特に、その中に印象に残ったこと、参考になったこと、あるいはぜひ取り入れてみたいといったようなことありましたら、聞かせていただきたいのですが。

○（常任理事） 今年の事例発表の中で、各発表者の中で、お互いが見学者と一緒にあって討議をしていくというのが、非常に充実してきたなという感じはいたします。それによって、やっぱり一生懸命聞いているということは、自分たちの町内に取り入れていこうかという、自分たちなりに精査されていると思います。そういったことで、いろいろな公民館の意見を聞くということで、非常に参考になったのじゃないかなと思っています。

それと、今年の場合はロビーがもう満杯になったということです。一生懸命見てあります。やっぱり皆さん見ているということは、結局は各公民館がどういった行事をやっているのかということで、非常に熱心に見てあるのですね。

これは、うちの行事に取り入れられるよというようなこと。2、3年前だったですかね、ワンコインのをやっているということが一つあったのですよ。それが2年、3年たつてくると、次から次へワンコインをやっているわけですね。そういったことで、いいことは自分たちも取り入れていこうということで、非常に意欲に燃えてあるということが如実に見えてきたなという思いがいたします。

今も資料がずっと飾ってありますけど、それぞれの公民館の特徴を生かした、よそではやってないというようなことをぜひとも、今後とも見せていただきたい。やっぱり82行政区あるわけですから、一つでもそういったところが増えていくことを大事にして、やっていきたいなというふうに思います。

○（事務局） 報告の中で館長・主事研修、大変多くありました。いろんな研修がありまして、参加されてスキルアップを図られているといった取り組みをされているという御報告でしたが、先ほど出ましたほかの地区の事例などで、参考になりましたといったようなものがございましたら、お聞かせいただきたいのですが。中村常任理事、お願いします。

○（常任理事） 去年の年末に、柳川の豊原公民館というところに視察に行きまして、そこで長年、青年団がやっていた盆踊り大会を公民館が引き継いで、子どもからお年寄りまで集える盆踊りということで、夏祭りということに変更して、行事をされているということ

で、開催されてもう26回を迎え、区民の親睦とかの場になっているということで、大変そういうところは参考になりました。

また、地区の公民館で、それぞれの特徴を生かして活動されているといったところが心に残りました。

○（事務局） ほかに参考になったみたいなのがございましたら、お聞かせいただけますでしょうか。

○（理事） あんまり言うと、できなかつたら困るから言いたくなかつたけど、この前、久山に行ったときに、須恵だったか、公民館を夏休みは開放したというような話があった。うちのところもお泊り会とか何回かして、心配はしたけど、よかった。それから、たまたま人材がいらっしゃったから、「区長、こういうことをしていいやろうか」と言うので、「してやって、応援するから」と。月に2回とか3回とか、子どもを集めて遊びと勉強会とをしてもらっていたから、いいなと思って一緒にしていたら、家を建てて出ていかれたのですね。後、誰か作ってやったらと言っていたけどできなかつた。

そういうようなことであって、また復活させたいなということで、特に夏休み、やっぱり事故の関係もあるものだから、大変。何とかうちももう一遍したいなという思いは持っています。以上です。

○（事務局） 最後に一つ、小公連の組織について教えていただきたいのですが、福地事務局長にお尋ねします。小公連の事務局長として組織を運営していただいているところですが、御苦勞されているところとか、工夫をされているところ、そういったところなど、教えていただけませんか。

○（福地事務局長） まず、報告があったように、公民館の活動を充実することと社会教育の振興を図るといふことの目標に対して、メンバー全員の方向を合わせるという活動ですね。そのために、その事業を遂行できるように仕組みづくり、それに取り組みました。

発表がありましたが、まず事務局会議、そして五役会、理事会、総会、段階的な組織によって企画をして、実行して、チェックして改善するというサイクルを回しながら、さらなるレベルアップを図ってきたというようなことです。

もう一つは、2年前から情報発信ということで、市の小公連だよりを発行してまいりました。ですから、毎回の記事内容の検討とか、取材、また原稿作成、そういうもので大変苦勞しております。

特に、組織のメンバーの皆さんは、役員は5名、常任理事5名、そして理事が19名、

参与さんが7名で、合計で36名の知識豊かな経験も豊富な各地区のトップリーダーの集まりです。そういう意味で、事務局としましては、各大会の講演テーマ、または講師の選定、そして依頼、研究討議の内容の打ち合わせ、その3つに大変苦勞いたしました。

○（事務局長） いろいろ教えていただきまして、ありがとうございました。

それでは、次の課題、要望になります。森田会長、お願いします。

○（森田会長） それでは、私どもから課題と要望を提案させていただきます。課題につきましては今、少し取り上げていく課題と近い意見も出たと思えますけれども、4点上げさせていただきます。

まず第1に、公民館活動のさらなる活性化というところで、公民館によって活動の温度差が生じている。これにつきましては、筑紫野市内で常時開館している公民館は87館中20館です。大体、全体の25%ぐらいです。また、常時じゃなくて、サークルだとか学習会、そういった随時活動されている公民館が80館。全体で92%ぐらいありまして、その都度、催し物だとか行事によって開館しているというところが多くございます。

その中で、やはり常時開館しているところについては、やっぱり活動内容、活動回数も多いというところでは、皆さんの意見の中でも常時開館するのが希望です。ただ、そこには、開館するためには、事務員等の配置、常駐が必要となってきますので、そういう面で費用が発生して、それぞれの公民館では希望としては常勤の方がほしい。そういう要望も出ているところです。

それから、多くの人が集まってくる魅力的な公民館活動の企画。これも先ほども出ましたけれども、公民館を利用されている方の偏りというか、限定されているのではないか。高齢者とか、子どもたち、年齢とか性別に関係なく、公民館を利用して、いろんな行事や企画に参加するような、そういう公民館の企画が必要になってくるのではないかなということで、活性化をするためにも推進リーダーが必要ではないか。

これは、次の2点目に上げております人材育成、これに関わってきます。公民館の活発な推進には、リーダーが必要になってきてまして、現在は、館長、主事を中心に公民館活動が行われておりますけれども、そのリーダーの熱意、資質によっても、その中の成果に大きな差が出てきているのが現状ではないか。

それと、高齢化が進んでいる、どこもです。同じ方が何年もされているとか、そういう現状も出てきておりますので、その次に上げておりますような継続的な後継者の育成、これが必要になってきているのではないか。特に、若い人の参加、これが将来を見据えた後

継者の育成というところが、課題として上げられてきております。

第3点目に、自主避難所としての位置づけ。これにつきましては、建築24年以上を経過した木造の老朽化した公民館が26館、全体の32%になっております。先ほども各地区の視察研修会の際にもちょっと話が出ておりましたように、本当に自分のところの公民館が古くて建てかえを検討しないといけない、そういう状況に近まっているという話が結構出ておりました。それが数字として上がっておりまして、筑紫野市の防災の関係課によりますと、小地区公民館は自主避難所という位置づけがございまして、そういう対応をどのようにしていったらいいのか。今後の計画的な整備が必要になってくるのではないかと考えております。

それに伴いまして、受け入れ態勢の充実。これは、災害が発生したときに、公民館として地域の人々を受け入れることができるように、日ごろからそういう準備、公民館の備品、資材、それから人的な整備も含めまして、体制が必要ではないか。これにつきましては、防災の観点からいいますと、関係機関との連携を図りながら、そういうものが必要になってくるのではないかなと考えております。

第4点目に、コミュニティ運営協議会との連携。これは、私どもコミュニティのまちづくりの視点を持った公民館というところで今後進んでいくと思っておりますけれども、公民館の位置づけです。生涯学習の拠点という位置づけとともに、まちづくりの拠点、コミュニティとどういうふうに連携をとってやっていくのか。コミュニティ運営協議会との親密な密接な連携、役割分担、そういうものを踏まえて、十分に協議して、円滑に推進できるようにしていく必要があるのではないかと、今後の大きな課題になってくるのではないかと考えております。

以上4点が、私どもの課題として上げさせていただいております。

続きまして、要望事項ですけれども、公民館のIT化促進というところで取り上げさせていただいております。公民館の中で、パソコンを導入されている地域が約32%、インターネットは19%、ホームページを開設されているところは6%ございます。このIT化というところでは、事務の効率化。これは、例えば会計処理の迅速化だとか、いろいろレジュメをつくったり、資料をつくったりというものの事務の効率化。

それから、情報の共有化の効率のためには、やはりパソコンを導入していくというところが必要になってくるのかなと考えております。公民館によっては、個人のパソコンを利用したり、中古ででも利用されているところもあると思っておりますけれども、まだ現状、公民館に常時導入されているところは、32%となっております。

また、情報の伝達、迅速化のインターネット、これにつきましても、全体の19%というところで、パソコンやインターネット、ホームページにつきましても、これは常設している公民館としてない公民館、これも大きな課題としてはなっております。常設もしてないところにいるのかなとか、そういう話にもなってくるかもしれませんが、基本的には今、小学校、中学校は、ほとんどパソコンルームが設置され、今の子どもたちはほとんどパソコン、インターネット、スマホとか携帯もそうですけど、ほとんどはやはりITの中に進んでいる状況があります。数年後には、やっぱりこういうものがどっとこの公民館にも年齢が交代していく中で、やはり起こってくる問題ではないかなと思っております。

防災についても、やはり公民館に逃げてこられたときに、このインターネットなりを使って、いろんな情報が収集できる。そういう利点も出てまいります。

各地区におかれましては、それぞれ公民館の中である程度、予算的な中で計上して計画的に導入を図っていかれることもあると思いますけれども、導入に関しても、サービスですね。インターネットとかパソコン、なかなか立ち上げてから運用するまでに専門的な知識が必要となってまいりますので、技術提供、支援とか、そういうものを市のほうにもお願いをして、こういう環境を整えていくことに対して、ぜひ御理解と御協力をお願いしたいと思っております。

以上、簡単でございますけれども、課題と要望についてございました。

○（事務局） ありがとうございます。課題では、公民館の活動の活性化、人材育成、そして公民館の老朽化に伴う自主避難所としての位置づけ、それからコミュニティ運営協議会との連携。そういったところが課題であるといったところをお伺いしました。要望にございました公民館のIT化の推進については、教育部長の江崎からお答えいたします。

○（江崎教育部長） 私から回答させていただきます。小地区公民館のIT化の実態については、今回見せていただきまして、まだまだ今から目指して行ってほしいなという気はしておりますが、事務の効率化とか情報伝達、それと情報の発信を行う上で、効率化を図っていくのが非常に大切なことではないかと思っております。

全ての公民館にパソコン、インターネット、それを導入されまして、またホームページが開設されるまでになっただけでは、非常に進んだということになるのですが、まさに現在の情報社会に対応した公民館活動の活性化においては、このパソコン、インターネット、ホームページ、これが充実していけばいいのかなという気はしております。今回、公民館での導入状況について見ておりますけれども、これからまだ伸ばして行って

もらいたい。支援が必要であるという考えは持っております。

教育委員会としてできることですが、生涯学習課を中心に、関係各課と連携をとりながら支援させていただきたいと考えておりますことは、具体的な情報の提供、パソコン導入の情報の提供です。パソコンの選定、どういったものが入れたらいいとか、どういったソフトがいいですよとか、それとどういったパソコンを推奨するか、インターネット導入に当たって接続業者をどうするか、プロバイダーをどうするか。そういったところの支援を行う必要があるのではないかと考えております。

また、技術支援としては、パソコンを導入するときの初期設定、ややこしいとか面倒くさいとか、非常にアレルギー持たれると思いますから、そういったところの支援は、すぐできると思います。それと、インターネットの接続のための、また初期の設定ですね。そういったものが中心になろうかと思えます。それとウィルス、インターネットをつなぐとウィルス対策をしっかりとやっておかないと、全ての情報が外に漏れるとか、パソコンが壊れてしまう。そういうふうなことになるので、そういったものに対する支援。また、ホームページの構築とか、運営に対する支援については必要ではないかと考えております。

そしてまた、それを導入しても、それを使いこなすだけの今度はスキルアップが必要になります。それにつきましては、パソコンの操作教育、それとかインターネットの操作教育とか運営の支援です。それとホームページの掲載内容のメンテナンスとか。ホームページを作っても、更新しないとずっと昔の情報がそこに留まったままになりますので、絶えず新しい情報を載せていくという作業がありますので、それをどうするかという維持管理体制の構築など、しっかりとやっていかないといけないと考えておりますので、それについては生涯学習課でできる範囲は、しっかり支援をさせていただきたいと思っております。公民館のIT化の支援ということで、そこにつながればと考えておりますので、ぜひ生涯学習課の担当に御相談いただければ、お手伝いはできるかと考えております。以上です。

○（事務局） 以上がIT化推進についての回答でございます。

このまま、次の意見交換に進めさせていただきたいと思えます。本日の参加者の中で、藤田市長に直接聞いてみたい、あるいは意見を言ってみようという方がいらっしゃるようでしたら、どうぞ発言をお願いします。せっかくの機会ですので、どんなことでも構いません。遠慮なくお願いします。

○（理事） 私たちのところはコミュニティを立ち上げたもの2つ、3つある。一つは、そのコミュニティ、今から立ち上げて回していかないといけない。東町は、先ほど言う二日

市小と二日市東小と分かれておる。うちの二日市東も部会をつくって、二日市は3部会、うちのところは4部会。4部会のうちに子ども育成部会というのをつくった。これが東小校区を対象にしている、二小校区の人がどうなっていくのだから。先日、総会があって、私会議があったからちょっとしか出られなくて、本音を聞きたいなと思っていただけ、そこまでいかなかったものですから、今後回していくについて、どう教育部長として、二小の子を東小に引っ張っていくのか。子ども役員は、二小、東小といっぱいいらっしゃる。行政区と運営委員と。そこのところが、一つ。

それから、長年の課題である市民体育祭。夏祭りとか敬老会とかもちつき、これは一緒にできるのです。ところが、市民体育祭が、ここにおられる本町区長や鳥居区長。特に鳥居の区長は、もう涙が出るほど協力してもらって、結局、東町であって、二日市小に行っている人のスペースがない。自分のところのスペースを少しあけて、ここに東町の人が来られるようにしておこうということまでして、協力してもらっているのですよ。

今一つは、そっちに行ったら、役をさせられるのじゃないやろうかという思いもあって、そこのところは長年の課題です。

特効薬があれば、それこそ2つに割れば何てことはないでしょう。もう新東町とか、あっちとこっちをわけてしまえばいいけど、そうもならないだろうから。

一番困るのは、東小ができて、そのときに分かれた。そのときの決めた人、先輩たちの悪口というか、これが出てきたときには非常に困るのですよ。当時、先輩たちは、そうすることが一番よい、ベターだ、これしかないよということでしたからね。そういつたときに、あのときああしておけばよかった、こうしておけばと言われるのが、一番私たちはつらいのですよ。それは、そのとき決めたとき、それが一番いい方法だから決めたのでしょう。今さらそれを言ったって、取り戻しはできない。どうしたらよくなるか、そっちのほうを考えてやらないとと言っているのですよね。

そこら辺を知ってもらって、何かこうしたらいいのじゃないかという案があれば教えてもらいたいし、私たちもまた考えていかないといけないことですけどね。

○（江崎教育部長） 明確な答えというのはいちよっとないのですが、確かに、おっしゃるとおり、以前からの課題ということで、東小と二小に分かれていくっていうのは重々わかっています。当時、どうしてこう分かれたかっていうところも聞かせてもらいましたけれども、踏切の問題があったというふうには聞いております。

今、子ども会の問題も確かに、校区の体育祭をするときに、東町は東小ですからそっ

ちに行くけども、二小の子たちは行かないもんねとそこはよく聞いております。じゃ、東町が二小に来ればいいけどもというのも、二小には東町のテントがないから、なかなかそういったことができない。実際、そこに通っている人の話も聞いたけども、やっぱり二小に行っている人たちの親御さんたちは、東町の体育祭には、やっぱり参加しづらいとおっしゃいました。その解決策がやっぱりないのですね。お互いにそれぞれの通っている小学校に行くのが、それしか方法はないのですけどねという話は、実際に親御さんと話したことはあります。

ただ、今言われるように、どっちかに統一して、じゃどっちに行きましょうというのは、やっぱり親御さんたちの判断がちょっと入ってくるのですね。私どもがどっちへ行ってくださいというのは、今のところちょっと答えを持ち合わせておりませんが、今度、コミュニティをお願いする中で、やはり子どもをどっちのコミュニティで見ていくのかという問題は確かにございますので、もうちょっとその辺は、どういうふうにするのが一番いいかを考えさせていただいてよろしいですか。

- （理事） 解決したところもあるのですよ。二小は、もう4、5年前から二学期制。東小は三学期制だったけど、今年から二学期制に移行するというので、これは本当によかったなと校長とも話しています。

それからもう一つは、二小は、学校運営協議会、あれをもう既に何年前前に立ち上げて、しっかりやっていっている。東小も今度作ったばかりで昨年暮れぐらいから。いろいろ両方、私は参加できるから、いいものは、二小はこうしていると言える部分もあります。

- （理事） その問題は今、東町の話ですけど、杉塚区が入ってないから、私が代表として今はなっているのですけどね。杉塚も北杉塚の太宰府西小学校の問題があるのです。

それで今、天拝小学校区、都府楼団地の行政区と、それから杉塚は、北杉塚と杉塚でしているのですが、天拝小学校には北杉塚は入ってきてないのですよね。だから、体育祭をするとき、皆さんに呼びかけるときに、天拝小校区でやったら問題が出るから、ブロックとかいろんな問題が出たのですけど、二日市コミュニティでするときに、今、21行政区でやっている部分を考えると、そういう問題もやっぱり難しくなって、ただ体育祭は、小学校単位でやっても、都府楼団地と北杉塚はやっぱり入れなきゃいけないわけですよ。今、天拝小学校と行政区は一緒に体育祭をしていますものですから、そこがなかなか難しく、二日市小は、小学校と地区が別々にしているなら、ある程度それで参加ができるのでしょけども、そのところもなかなか難しく、いずれは小学校単位で行くなら、天

拝なら天拝ブロックっていうような形で小学校をのけてしまって、皆さんと一緒にやっていくような考え、今、話をしているのですけどね。

だから、天拝小学校の問題も意味はちょっと違うのですけども、考えていかなきゃいけないところだと思います。

- （理事） 御笠地区の中嶋ですけど、中身がちょっと外れるかもしれませんが、御笠地区には16行政区があって、16公民館があるわけです。その中でも、本道寺、柚須原、香園という地区は、世帯数が少ないから、3つ合わせたって60世帯弱ぐらいなのですね。それを地区に各役員がおられて、一番少ないところは、12、3世帯ぐらいしかないところに1行政区があって、そこでいろんな役を、区長なり公民館主事、館長なりやっておられて、若い人ばかりじゃなくて、年寄りばかりしかいないものですから、区の行事とか農業関係とか、いろんな役がたくさんあるわけですね。

だから、そういう少ない地区は、もう4年に1遍とか何年に1遍、ずっといろんな役を交替していかないといけないわけです。もう区長4回目とか5回目とかいう話を聞くから、その少ない地区を1つにまとめて、1つの行政区にできないかなということもあるのです。

それかと思えば、東吉木区の中にみかさ台があって、みかさ台には430世帯ぐらいある。合わせたら750世帯ぐらいあるのですね。それも1つの行政区です。

だから、余りにも大きな世帯のところと少ない世帯のところとの格差が大き過ぎて、もうちょっと行政区の統合とかいろんなことを市のほうで考えてもらえないだろうかと思っ、私が区の役をしてから感じた点ですけど、それがまとめられるなら、そういうふうにやってもらいたいと思います。

また、東吉木とみかさ台を2つに分けて、750ぐらいあるのを半分ずつぐらいに分けて、行政区を2つにする。少ないところは3つあるのを1つにするとかやってもらえれば、住んでおられる方はいろんな役をいつもいつもするのではなくて、もう少しまとまった行政区になるのじゃないかなと思っています。そういうことがありますので、もしできることならよろしくお願ひしたいと思います。

- （藤田市長） まず井上理事と安楽理事の御質問の小学校区の問題は、もう前から校区の見直しをしようというような話もあり、それをなかなかできなかった現状があります。

それで、ここに来て、またコミュニティというような形になりますものですから、コミュニティは、大体は小学校区単位でつくるべきというようなお達しが、これはもう昭和20年代にあっているわけです。それからしますと、今は7館で、7つでスタートしよう

というのが平成21年の話でスタートしているのです。だから、かなり無理があるのですが、やっぱり先輩から言われて、その後、後継した者としては、先輩がスタートしたことはやっぱり大事にして進めていかないと形ができませんので、今のところはそれで、区長さんたちにもたくさんお世話をかけて今、あれもこれも進めていっている状況です。

ですから、まことに満足がいくような答弁にはなりませんけど、もうしばらく様子を見させていただく中で、今日の御意見を真摯に受け止めて、今日は持ち帰らせていただきますけれども、なるだけ解決に向けて進めていきたいと思っておりますので、その点で御了解をいただきたいと思っております。

それから、中嶋さんがおっしゃった問題も、これ行政区の統廃合というのは、もう以前から出ているのです。この問題を解決したいがゆえにそれをやっていたのですが、これも完成していません。これもコミュニティと今度は関わりがだんだんできてくるだろうと思っております。だから、言われたことは、今日は宿題で持って帰らせていただきますけれども、やっぱり本当区長さんというのは大変なのです。もう回ってきてもらったら困るというぐらいの地区もあるわけです。ただ、やっぱり2000世帯、3000世帯のところもあるわけですね。だから、千差万別、ばらばらですから、ここら辺もコミュニティを含めて、なるだけ均衡のとれたまちづくりを進めていきたいと、このように思っております。頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

小公連の課題の中の3番目に老朽化している公民館のお話がありましたが、この自主避難場所としての位置づけで、32%が老朽化している。これはずっと見ますと、先代の市長さんたちが努力して、ずっと自分の任期中には切りかえて、していただいているのですね。私になってから5館ぐらいしているのですが、4年に5館ということは、1年に1館ぐらいしているわけですから、大体努力はしているのですけどね。何せ82あるわけですし、追いつかないところがありますけれども、なるだけ努力して、今のところ民設民営ですから。これが、公設公営になるとまた違うのですが、補助金ぐらいしか出し切れませんが、その段階でもなるだけやっぱり進めて、前に進めて、改修を図っていききたいとこのように努力したいと思っております。

それから、あとはコミュニティ。コミュニティができて、公民館のやっぱり小公連とコミュニティの関係が出てくるのですよ。これは、今からのコミュニティに区長さんたちとコミュニティのありようを今からずっと協議しながら進めていかなければいけません。

今の段階で、区長さんを継続するか、やめるのかっていうのは、27年、28年までは

継続しますと言っています。それから先は協議をしていかななくてはいけない分野も出てくると思っていますので、市民協働推進課の中で、そこら辺を具体的に区長会に話ができるような内部プロジェクトの中でやっていますので、近い将来、区長会と話をさせていただくことになろう、このように思っておりますが、その時点あたりで小公連の位置づけとコミュニティの位置づけ、これはもうしっかりはっきりしていきたいと思っております。そのところで御理解いただきたいと思えます。

○（事務局） 意見交換はこの辺りで切り上げさせていただきます。

それでは、最後の項目です。小地区公民館に係る平成26年度の筑紫野市の主な施策概要の説明を藤田市長が行います。

○（藤田市長） 平成25年1月11日の第17回移動市長室から施策概要の説明をさせてもらっており、市の平成26年度の予算や特に皆様の活動に関連する本年度の事業について説明させていただきます。

まずは、平成26年度の予算、一般会計の歳出予算の内訳です。一番大きな割合を占めているオレンジ色は民生費、子どもや高齢者、障害者などの福祉に使われるものです。予算の42.2%を占め、その額は、約136億6千万円です。

灰色は総務費、行政の運営や戸籍、税金の徴収などに使われます。予算額は約34億6千万円、全体の10.7%を占めています。

緑色は公債費、市の借金を返済するもので、本年度の予算は約31億8千万円、全体の9.8%を占めています。

紫色は土木費、道路や公園などの補修や建設に使われます。予算額は約29億7千万円、全体の9.2%を占めています。

黄色は教育費です。教育や文化・スポーツなどに使われます。予算額は約29億1千万円、全体の9.0%を占めています。

桃色は衛生費、健康診断や予防接種、ごみ処理などに使われます。予算額は約28億2千万円、全体の8.7%を占めています。

最後に水色のその他は、議会や農業・商工業、消防などに使われる予算で約33億6千万円、全体の10.4%です。

一般会計の予算総額は約323億7千万円となっており、以上が平成26年度の一般会計歳出予算です。毎年ですが、予算の枠はあまり上げていなくて、なるだけ儉約してさらにスクラップアンドビルドをしながら、黒字を出して、プラスで起債を返還して、

行財政の健全化に努めています。内部評価、外部評価も作っていただいております。

それでは、小地区公民館に関する施策ですが、87の小地区公民館組織があり、それぞれ主体的に集いと学びの活動を展開して、先程お話があったとおりにやっております。

最初が、「小地区公民館設置補助金」、予算額は4141万5千円です。これが公民館を建てていっている補助金で、それから老朽化した修繕費にも充てているところです。

次に、「小地区公民館主事設置補助金」、予算額は270万円です。

「小地区公民館講座推進事業」、予算額は15万2千円です。

「小地区公民館連絡協議会補助事業」、予算額は135万円です。

「青少年育成事業補助金」、予算額は50万円です。

「通学合宿推進事業」、予算額は20万円です。結構いろんなところでやっております、感謝しております。

「コミュニティづくり事業」、予算額は944万9千円です。

最後に、「コミュニティ運営協議会補助金」、予算額は740万円です。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

- （事務局） 以上、小地区公民館に関する平成26年度の施策概要でした。それでは、懇談会の最後に藤田市長がお礼のあいさつを申し述べます。
- （藤田市長） 今、安全安心のまちづくりをやっています。そして、南海トラフ地震もいつくるかわかりません。まちづくり推進協議会の会長賞をもらったり、あるいは福岡県の防災賞をもらったりした湯町の公民館活動があり、これは平成17年4月に防災を立ち上げてもらっています。皆さんご存知のとおり、平成17年3月20日に福岡西方沖地震が起きたので、それからすぐ作ってもらっているのですよね。公民館活動でも、そういうふうな努力をしてやってもらっているところがあるのですね。森田会長のところですけど、小川知事がふるさと訪問で視察に来られたときに、これは平成24年6月28日でしたけど、大変感心をされて、「ああ、公民館活動もここまでまとまった組織の中で、こんな活動をしてあるのですか。」と。未だに会うと、「湯町は元気にがんばっていますか？」と教えてください。

いろいろ82の館の中で温度差はあるでしょう。やはり地域は地域で守る、自分は自分で身を守るというような共助の精神を、この公民館の中に取り入れてもらえば、もっともって活力ある筑紫野市ができるであろうと思っています。

今日はそういう意味では、本当に小公連として、日々に目配り気配りしながら全市をまとめようとしてある森田会長をはじめ役員の皆さん方のご参集の中で、大変有意義なお話、また有意義な時間を作っていただきました。

筑紫野市も今からコミュニティを作っていきます。そして小公連というのも大事な生涯学習をしていかななくてはいけない場所ですから、そして避難所として充実していかないといけない場所ですね。だからコミュニティと小公連のこの公民館の活動は一体とならないといけない、近い将来そういう風になっていかないといけないと思っています。そういう大事なところですから、市も本腰を入れてきっちりと前向きに進んでいきたいと思っておりますので、今後とも皆さん方のご理解とご協力を節にお願い申し上げまして、今日の移動市長室の感謝の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございました。